

常に対話を絶やさないこと。 常に寄り添うこと。 変化し続ける社会課題を、ともに超えていくために。

対話を通じて共感しながら課題を見出し、 その解決の糸口をともに探っていく。

URは「社会課題を、超えていく。」という言葉を企業広報で 使っています。社会課題は、非常に幅広い言葉であると同時 に、時代の流れや状況の変化でどんどん変わっていきます。 それを超えていこうとする我々は、常に状況を見つめて、何が 課題なのか、自分たちに何ができるのかを考え、対応できる ように変化し続けなければなりません。例えば、「都市再生」 は、地方公共団体や地域で活動する方々、住んでいる方々と の対話から、相手が何を思い、何を求めているかということ を理解しないと課題が見つけられません。「賃貸住宅」は、高 齢者と子育て世帯において、居住空間に何を求めているのか 違ってくるので、それを感じ取りながら、課題を発見していく ことが大切です。対話を通じて共感しながら課題を見出し、そ の解決の糸口をともに探っていくこと。建物を建てる、インフ ラを整備する等のハード面だけでなく、その後のまちのあり 方、何を目指すかという認識の共有、構想や意見をまとめて 一緒にやろうというプレーヤーを集めて、まちの価値と活力 を上げていく。どんなまちをつくるかという議論から関われる のがURの強みだと思います。

地方公共団体と地域の思いをつなぎ、 あるべきまちをつくっていく。 社会的信頼があるからこそ、できること。

私はなるべく、現場の職員たちと話をするようにしています。例えば、自由度の高い空間にリノベーションしたサービスフィールド付住宅やペット共生住宅等、職員たちは、色々なアイデアを出して、前向きに挑戦してくれています。URは、単にディベロッパーと一緒になって立派な建物をつくるだけではなく、まち全体のあり方を地方公共団体と真剣に議論して、エリアマネジメントにも取り組んでいます。まちづくりや災害復興において、大切なのは、まちのあり方や将来像を考えること。私たちURは、地方公共団体と地域の方々との間に入り、蓄積しているノウハウや技術力を使いながら関係者の思いをつないで、あるべきまちをつくっていきます。公共の立場を理解し、最初のまちづくりの基本構想から関与し、民間事業者との調整も行う。社会的信頼があるからこそ、できることだと思います。

ハードはもちろん、 ソフトの整備にも力を入れていきたい。

URは幅広い事業展開をしていますが、関係者の皆さまと共 感性を持って課題解決に取り組むということに関しては、各 事業で共通しています。「都市再生」は、意向が異なる部分が あっても、関係者の皆さまにまちづくりのビジョンに共感して もらい、どのように実現していくかをまとめていきます。また、 社会経済情勢の変化していく中では、その地域の実情に応じ たまちづくりが大切です。お店や住んでいる方々の協力を得 て、皆さまが共感性を持つ取り組みをつくっていかなければ なりません。阪神・淡路大震災以来取り組んでいる「災害対 応支援」は、津波や地震で被災した地域が抱える課題や住民 の方々の思いを地方公共団体と共有しながら、まちをつくっ てきました。新たな挑戦である「海外展開支援」は、各国が抱 えている課題を認識して、海外の政府や地方公共団体等と一 緒に課題解決に取り組んでいます。皆さまに馴染みの深い 「賃貸住宅」は、住戸や空間をどう活かすのかに加えて、生活 支援アドバイザーやUR子育てサポーターの配置等、コミュニ ティ形成に資するソフトの取り組みも重視しています。生活 の豊かさは建物だけで決まるものではありません。団地の価 値向上に向けた取り組みが、住んでいる方の生活の質向上 につながることが必要だと思っています。ハードとソフトが 揃ってこそ、本当のまちづくり。これからも、ハードはもちろ ん、ソフトの取り組みにもより一層挑戦していきたいと考え ています。

皆さまと同じ目線で課題を考え、 一緒に取り組んでいきたい。

関係者の皆さまから「URがいてくれてよかった」と言ってもらえる存在でありたいと思っています。理想は、各事業で関わる方にとって、必要不可欠な存在になること。そのためには、同じ目線で課題を考え、ときに状況を俯瞰し、URの持つノウハウを活かし、解決するために一緒に取り組んでいくしかありません。URがどんなことをやっているか知っていただき、「一緒にやりましょう」と言ってもらえるような組織でありたいと考えています。皆さまには、引き続きURの取り組みをご理解いただき、ご協力や叱咤激励をいただけると幸いです。